

阿南 ぶらりまち紀行 ～地域の輝き～

第138回

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

ながいき・ふれあい健康まつり
(中野島地区)



じゃんけん大会で盛り上がった



敬老会のようす

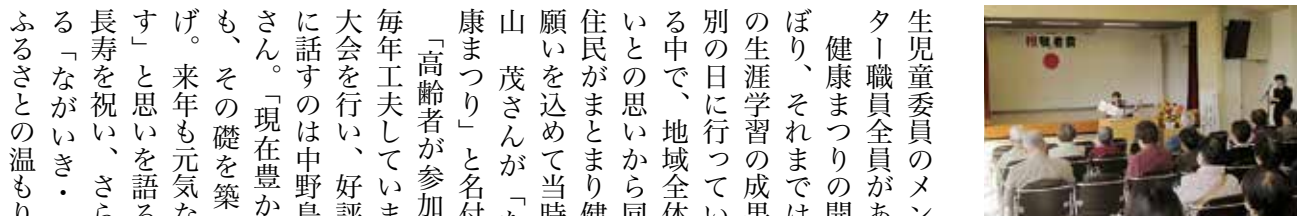


健康チェックで体調管理

長寿を祝う風習は奈良時代ごろから始まったとされる。昔は短命で、40歳になると家族が集まって長寿のお祝いをした。昭和22年に、兵庫県多可郡野間谷村の村長であった門脇政夫さんが、農閑期の9月15日を「年寄りの日」とよび、まちづくりでお年寄りの経験と知恵を借りる日として敬老会を開いた。その後兵庫県全体、そして全国へと広がり、昭和41年に「敬老の日」が国民の祝日となった。

中野島地区では、「ながいき・ふれあい健康まつり」が毎年11月に中野島総合センターで開催されていて、75歳以上の方が招かれ、子どもから大人まで地域住民みんなが高齢者の長寿を祝い、おもてなしをする交流と親睦の機会となっている。

当日は、地区敬老会が開催されるほか、健康チェックや児童クラブの作品展示、屋台など参加者をもてなす催しがある。心温まる催しに、参加者の顔も自然にほころぶ。事前の準備から当日の運営には、地区の社会福祉協議会や民



敬老会では小学生が作文を披露



みんなで阿波踊り健康体操

生児童委員のメンバー、中野島総合センター職員全員があたる。

健康まつりの開催は平成17年にさかのぼり、それまでは地区敬老会と公民館での生涯学習の成果を発表する中野島祭を別の日に行っていた。多くの住民が集まる中で、地域全体で高齢者をお祝いしたいの思いから同日開催となった。地域住民がまとまり健康になってほしいとの願いを込めて当時の中野島公民館長の古山茂さんが「ながいき・ふれあい健康まつり」と名付けた。

「高齢者が参加できる催しをめぐして毎年工夫しています。今年はじゃんけん大会を行い、好評でした」とうれしそうに話すのは中野島公民館長の佐々木延一さん。「現在豊かな生活が送れているのも、その礎を築いた地元の先輩のおかげ。来年も元気なお姿でお会いしたいです」と思いを語る。地域全体で高齢者の長寿を祝い、さらなる健康につなげていく「ながいき・ふれあい健康まつり」。ふるさとの温もりに触れた一日だった。

発行/平成30年(2018年)1月1日 [714号]
編集/阿南市企画部秘書広報課 〒774-8501 阿南市富岡町1-1番地3 ☎0884-22-1110 e-mail: hisho@anan.tokushimajp
印刷/米崎印刷株式会社